

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>ヨルダンにおける青少年の健全な育成</p> <p>当該報告期間に実施した質問表調査からは青少年らに肯定的な変化が表れていることが確認できており、上位目標の達成にむけ、一定の成果が出ているといえる。(参照 (3)「達成された成果」)</p>
(2) 事業内容	<p>(イ) コミュニティ参画プログラム (以下、CP)</p> <p>週5日の活動日において、14～18歳の青少年69名(計画時想定人数40名)が奉仕活動やワークショップの企画・立案、及び実施までの一連の過程について、エドゥケーターによるトレーニングを受講。そこでの学びを基に、受講者自身が主体となって、実際に地域での奉仕活動(例 センター清掃、孤児院訪問)を実施した。また、年長の青少年は裨益者送迎用バス運行時に年少者の乗降をサポートするバスアシスタントや、日々の活動を率先していくエドゥケーター補佐の役割を担当することで、センター運営に必要なスキルと素地を養った。青少年自身の企画・運営による保護者向けワークショップは計4回開催され、67名の保護者が参加した。ワークショップでは主に、青少年が家庭や学校で抱える問題(例 非行、親や学校から受けるプレッシャー)を取り上げ、エドゥケーターの助言を取り入れながら、その対処法を議論した。</p> <p>(ロ) ユースセンター職員研修</p> <p>当研修は、ヨルダン国内の各ユースセンターの年次行動計画から見られた課題—例えばセンターの活動の企画・運営が職員主導であり、青少年の参画が弱い、全体予算に占める人件費充当が高くなる傾向にある—などの点に改善の余地が見られていたことから、当団体が持つ青少年活動実施のノウハウを伝えるねらいで実施された。研修へ向け、事前に地方23箇所のHCY管轄ユースセンターを巡回して、各センターの現状・課題、研修内容への要望を把握するための質問表調査を行い、その結果を基に地方8センターおよびアンマンユースセンター職員への能力向上研修を実施した(2012年6月11日～13日)。研修では特に、青少年活動の企画・実施・反省の一連の過程に、青少年自身の参加の度合いを高めるための指導に力を入れた。研修後は青少年活動案の企画コンペを実施、参加した地方8センターが研修の学びを生かした活動案を作成し提出した。それらの活動案のうち、研修での学びが一番よく活かされたと判断されたタフィーレ男子センターが実際に活動を実践し、その後も当団体による巡回モニタリングと継続的なフォローアップが行われた。</p> <p>(ハ) ノンフォーマル教育</p> <p>英語、スポーツ、演劇、音楽、美術、ストーリーライティングの各クラスを週5日、計4学期(一学期三ヶ月制)を実施し、8～18歳の青少年997名が参加した(計画時想定人数720名【180名×4学</p>

	<p>期】。各学期の最後には、成果発表会を開催し、クラスの成果を保護者及び地域住民へ披露するほか、専用 WEB やブログ、Youtube サイト上でも掲載した¹。特に、美術作品については、成果発表会などを通し地域住民から購入を求める声が聞かれるなど、作品の質の向上が確認できた。</p>
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>(イ) 青少年に対する地域住民の理解促進及び参画 前半期、CP 参加の青少年が孤児院訪問を 2 回行うほか、週 5 日の通常の活動日には随時、幼少年向けのアクティビティやセンター環境整備のための植林や清掃活動を実施した。後半期では、通常の活動に加え、青少年主導による保護者向けワークショップを開催した。CP 参加者の保護者を対象に質問調査を実施したところ、8 割の保護者がプログラムを通し青少年らの自信や主体性、リーダーシップが向上したと回答、また、9 割が当該プログラムを含め、当事業が実施する青少年活動が、青少年を取り巻く問題の改善に向けた有効な手立てとなり得る、と回答した。さらに、CP に参加する青少年のうち、6 名が裨益者送迎用バスのアシスタント、10 名がセンター運営と活動のアシスタントを務めるほか、53 名が成果発表会や遠足といったセンター行事の運営側に関わるなど、青少年自身がセンターの運営により積極的に貢献する姿勢が確認された。</p> <p>(ロ) 青少年活動におけるユースセンター職員の意識及び能力の向上 研修に参加したユースセンター職員の 9 割から、青少年活動の新しい企画法やチームワーク精神について学ぶことが出来たとの肯定的意見が寄せられた（研修事後質問表結果より）。また、研修後に提出された青少年活動の活動案において、活動の企画・振り返りに青少年の参画がより重視された内容となっている、また、予算において人件費が極力抑えられ、その分が青少年のための他の活動項目に充当されているなど、内容に一定の向上が確認できた。なお、この各地方センターが作成した活動案は、各センターの次年度行動計画に組み込まれており、実際に実施が予定されていることから、引き続き、研修の成果が地方センターを介しヨルダン国内へ広く伝えられていくことが期待される。</p> <p>(ハ) 青少年への教育効果 ノンフォーマル教育コースの各学期終了時に実施した質問表調査の結果、センターでの活動を通し、参加者の 8 割強が学校生活において積極性が生まれるなど肯定的な変化を実感、9 割強において新しい知識の獲得やスキルが向上、8 割が異なる国籍や出身地の友人を持つようになったことが確認できた。特に、回答内容から、参加者</p>

¹ 専用 WEB サイト : www.1001stories.asia, ブログ : knkjordan.blogspot.com
他サイト : www.facebook.com/KnKStories, www.youtube.com/user/KnKStories

	<p>が以前より物事を深く考えられるようになり、自身の考えを他者に表現することに抵抗がなくなったことで、より自信を強めた事例が目立った。これらから、センターでの活動参加が青少年に対し肯定的変化を促しているといえる。</p>
(4) 持続発展性	<p>当事業期を通して青少年がより主体性を発揮するようになったユースセンター運営について、実地トレーニングを本格化させる。一方で、当該トレーニングを受けた年長青少年、能力向上研修を受けたHCY職員、並びに現地スタッフを含む地域住民が主導となったCP運営委員会（仮称）を設立する。事業終了後は、当委員会がHCYとの連携の下、青少年活動を継続して行っていく。併せて、当団体の現地スタッフによるローカルチーム（自己資金対応）が活動のモニタリング及びフォローアップ、当団体本部への活動報告を行っていき、現地組織および地域住民による事業の持続性を補完する。</p>